

# 北九州市立総合療育センター 公的医療機関等2025プラン

平成29年9月策定

【北九州市立総合療育センターの基本情報】

医療機関名：北九州市立総合療育センター

開設主体：北九州市

所在地：福岡県北九州市小倉南区春ヶ丘１０番２号

許可病床数：１００床

（病床の種別）

一般病床　１００床

（病床機能別）

回復機能病床　　６０床（第１病棟）

急性期機能病床　４０床（第２病棟）

稼働病床数：１００床

（病床の種別）

一般病床　１００床

（病床機能別）

回復機能病床　　６０床（第１病棟）

急性期機能病床　４０床（第２病棟）

診療科目：小児科、内科、整形外科、リハビリテーション科、眼科、精神科、児童精神科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、歯科、小児歯科、矯正歯科

職員数：２２７名

- ・ 医師・歯科医師　　１１名
- ・ 看護職員　　　　７３名
- ・ 専門職　　　　１２７名
- ・ 事務職員　　　　１６名

## 【1. 現状と課題】

### ① 構想区域の現状

- 総人口はすでに減少局面に入っており、65歳以上人口は2020年がピーク、75歳以上人口は2030年がピークだが、どちらも総人口に占める割合は増加を続けると予想されている。
- 人口10万人当たりの一般病床数は1,121.1床、療養病床数は485.3床で、どちらも全国平均を上回っている。また、医師の数は、人口10万人当たり302.0人となっており、全国平均を上回っているため、病床数・医師数ともに医療資源は豊富である。
- 許可病床数は17,850床であるが、過去5年間（2009年-2014年）で550床（一般病床321床、療養病床229床）減少している。また、病床機能報告では17,009床で、高度急性期1,669床、急性期7,357床、回復期2,414床、慢性期5,569床となっており、急性期・慢性期が多い状態である。
- 入院医療の提供状況にかかる自己完結率は、小児の入院体制で97.8%、一般病床（看護師配置基準7対1及び10対1の病床）で96.9%、回復期に対応する看護配置基準13対1及び15対1の病床で97.0%等と非常に高く、医療提供体制は全般的に充実した状況であり、周辺区域からも患者が流入している状況である。

### ② 構想区域の課題

- 高度医療機関が集積し、高度急性期、急性期について広域的に医療提供を支える役割を果たしつつ、高齢化の進展に伴い増加する慢性期・在宅医療等の医療需要に適切に対応することが必要である。したがって、将来のあるべき医療提供体制を実現するためには、在宅医療等の提供体制を充実させていくこと、訪問診療を行う医師、訪問看護師など在宅医療等を支える人材を確保していくことが不可欠である。
- 2015年度の病床機能報告の病床数と2025年の必要病床数を比較した場合、特に回復期病床が2,411床不足する見込みとなっている。回復期病床は、入院医療と在宅をつなぐ重要な役割を果たすことから、地理的な配置を考慮しながら既存の急性期又は慢性期病床からの転換により、回復期病床の確保を図っていくことが必要である。

病床の機能	現状の病床数(2015)	必要病床数(2025)	2025-2015比較
高度急性期	1,669床	1,883床	214床
急性期	7,357床	5,296床	▲2,061床
回復期	2,414床	4,825床	2,411床
慢性期	5,569床	4,062床	▲1,507床
合計	17,009床	16,066床	▲957床

- また、既存の医療資源の機能が十分発揮できるよう、医療機関間の連携や医科・歯科の連携を一層進めていくとともに、将来のあるべき医療提供体制をさせる医療従事者の確保に取り組む必要がある。

### ③ 自施設の現状

#### ○基本理念

人と知識と技術を集結して一人ひとりの幸せを大切にする社会づくりに貢献します。

**スローガン** ～ 一人ひとりの笑顔のために ～

#### ○基本方針

利用者が一人の人格として当然払われるべき尊厳を保ち、幸せで文化的な生活を確保できるよう利用者のニーズに対応しながら、ご家庭や地域での生活を支援します。

#### ○診療実績

届出入院基本料：障害者施設等入院基本料 10 対 1

平均在院日数：127 日 病床稼働率：95%

#### ○職員数

227 名（医師・歯科医師 11 名・看護職員 73 名・専門職 127 名・事務職員 16 名）

#### ○特徴

障害児（者）の療育及び医療の中核施設として、障害のある子どもの早期発見・早期支援、障害の程度に応じた療育訓練、相談支援等を行っており、入院については、急性期と回復期の病床を有しているが、主に回復期が中心となっている。

#### ○在宅医療

在宅支援医療ネットワークの構築に向け、研究会の開催、ネットワーク構築のための診療所・小児科医院・事業所等への訪問などを行っている。

#### ○他機関との連携

隣接する独立行政法人国立病院機構 小倉医療センターと「医療機能等連携協定書」を締結し、小児医療に関する連携・協力体制を構築するとともに、北九州市立八幡病院とも小児医療について連携を行っている。

### ④ 自施設の課題

○総人口は減少局面に入っているが、新患者数は、発達障害・精神科疾患の子ども達の受診が総合病院や診療所等からの紹介により増加していることもあり、平成27・28年度は1,000名を超えており（区域外（京築地区）の患者も含む。）、待機時間の長さが課題となっている。

#### ※発達障害・精神科疾患 件数

年度	2012	2013	2014	2015	2016
件数	911	942	861	1,248	1,004

○在宅支援医療ネットワークの構築を図るため、「情報共有の仕組みづくり」「在宅生活の支援」などの検討が必要である。

○近年平均入院患者数が75床（医療入院用定床80床）を超える状況が続いているが、センターに入所を希望するまたは入所する必要がある重症心身障害児（者）の数は年々増加している。また、在宅の重症心身障害児（者）を支えるため必要なときに安心して入院できる体制を整えておくため増床の必要がある。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・北九州区域のみではなく、近隣地域等も対象として、障害児（者）の療育及び医療の中核病院として、障害のある子どもの早期発見・早期支援、障害の程度に応じた療育訓練、相談支援等を引き続き行っていく。
- ・北九州市立総合療育センターは、北九州区域において、障害児（者）の療育を専門に行う唯一の医療機関である。北九州区域内には、5箇所の周産期母子医療センター等がある。  
NICU等から地域へ円滑に移行できるよう、周産期母子医療センター等と地域の診療所などの連携支援や小児在宅医療の後方支援を行う。
- ・北九州区域では、在宅医療を支える人材の確保が課題となっている。小児在宅医療を支える人材を確保するため、医師、看護師、薬剤師、訓練士、医療ソーシャルワーカー、PT、OT、ST等の多職種を対象とした研修を継続的に行っていく。
- ・障害児（者）を対象とした地域の中核病院として、保有する医療機器等を地域の医療機関と共同利用するなど、地域の医療機関との連携を図る。
- ・近隣の地域支援病院と相互の医療機能をより発揮するため、人材の確保・育成、在宅生活に関することについて相互に協力をする。

② 今後持つべき病床機能

北九州市立総合療育センターは、障害児（者）を対象とした病床であり、既存病床数の算定に該当する病床ではない。現在、当センターの病床は稼働率95%を越えており、現病床を引き続き維持する必要がある。

また、回復期病床は現在、60床であるが、ニーズが高く、新規受入れができない状況にあるため、平成30年11月の新センター開所を機に125床に増床し、回復期病床の確保を図る。

③ その他見直すべき点

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	40		40
回復期	60		125
慢性期			
(合計)	100		165

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	新センター開所に向けた準備を進める	円滑に新センターへの移行を行い、2022年度には、増床分を全稼働させる。	集中的な検討を促進 2年間程度で
2018年度	【11月】新センター開所		
2019～2020年度	段階的に回復期病床を増床（稼働）する		
2021～2023年度			

地域において、在宅医療に取り組む医師の意識調査や小児患者の実数調査を行い、地域のニーズ把握を行う。

ニーズに基づき、障害児（者）を対象とした中核病院としてのあり方を検討・取組の実施

地域における小児在宅医療を担う医療機関として、地域の医療機関との連携強化

地域のニーズに応えられているか随時、確認を行い、果たせる役割を的確に担う。

第7期介護保険事業計画

第8期介護保険事業計画

第7次医療計画

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持	小児科、整形外科、内科、リハビリテーション科、眼科、歯科、矯正歯科、小児歯科、精神科、児童精神科、耳鼻咽喉科、泌尿器科	→	小児科、整形外科、内科、リハビリテーション科、眼科、歯科、矯正歯科、小児歯科、精神科、児童精神科、耳鼻咽喉科、泌尿器科
新設		→	婦人科
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率：95%

\* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

(自由記載)